

令和6年新春駐車場研修会開催報告

令和6年新春駐車場研修会を駐車場関連4団体の共催で開催しました。

1. 日 時：令和6年2月2日(金) 13時30分～16時15分
2. 場 所：オンライン研修(期間限定でYouTube配信)
3. 主催者：一般社団法人全日本駐車協会
一般社団法人日本パーキングビジネス協会
公益社団法人立体駐車場工業会
一般社団法人日本自走式駐車場工業会
4. 参加者：278名(内、当協会関係143名)
5. 講演内容

今回の研修会では、国土交通省様の駐車場政策に関するご講演に続き、消防庁様より昨年8月に発生した厚木市での駐車場火災について、それに関連して(一財)日本自動車研究所様より自動車の延焼性について、後半では駐車場のこれからを考えるテーマとして、ボッシュ(株)様よりAutomated Valet Parkingと、IHI運搬機械(株)様よりモビリティハブ 空飛ぶクルマ離着陸場をテーマとしたご講演をいただきました。

(1)「駐車場施策の最近の動向」

①講師 国土交通省 都市局 街路交通施設課 企画専門官 鶴岡 陽一郎 様

②要旨

i)まちづくりと連携した駐車場施策

コンパクトでゆとりのあるウォークアブルなまちづくりと駐車場政策、駐車場施策ガイドライン(第2版)など

ii)まちづくりにおける駐車場政策のあり方検討会

今後の駐車場政策のあり方について検討を行うため有識者・駐車場関係団体・地方公共団体などの委員で構成された検討会の検討状況など

iii)駐車施設の質の向上・新たな時代への対応について

充電インフラの整備、まちづくりGX(緑化)・防災、バリアフリー・こどもまんなかまちづくり、シェアモビリティ・モビリティハブなど

(2)「厚木市駐車場火災について」

①講師 消防庁予防課 設備専門官(併)理事官 明田 大吾 様

②要旨

i)駐車場火災の概要

ii)駐車場2階における出火車両の火災の進展の特徴

iii) 店舗の自衛消防活動及び消防隊の活動状況等

火災時の自衛消防活動など

iv) 火災原因調査に係る対応状況

消防研究センター原因調査室の対応、厚木市消防本部の対応及び出火車両と同車種のフォルクスワーゲンの対応など

v) 火災に関する諸条件の整理

環境面(①車の燃焼性状②駐車場の構造等③消防用設備等④気象条件)と消防活動面(①関係者による自営消防活動②消防隊による消防活動)の整理と一般的な自走式駐車場における火災延焼シミュレーションを踏まえた分析など

vi) 厚木市で発生した駐車場火災を踏まえた対応の考え方

(3) 「電動車(EV・FCV)を含む近年の自動車の延焼性について」

①講師 一般財団法人日本自動車研究所 環境研究部 電動車標準化グループ
主席研究員 田村 陽介 様

②要旨

i) はじめに(近年の自動車の動向)

ii) 自動車の使用材料の変化(樹脂類)

自動車に使用される樹脂類の発熱量変化、ポリプロピレンの燃焼時の特徴など

iii) 車両形状と外板の材料変化

車両形状(車幅)、車両の延焼形態、車両形状の変化(車室内と荷室の一体化)及び、外板の材料変化による延焼性の違いなど

iv) バッテリー電気自動車(BEV)・燃料電池自動車(FCV)等の電動車の採用

BEV火災の特徴、FCVの火災の特徴とFCV火災の延焼性など

(4) 「ボッシュのAutomated Valet Parkingの取り組み」

①講師 ボッシュ株式会社クロスドメインコンピューティングソリューション事業部
ドライバーエクスペリエンス部門テクノロジー・サービス開発部
セクションマネージャー 澤田 誠 様 町田 修宏 様

②要旨

i) ボッシュ紹介

ii) クロスドメインコンピューティングソリューション(XC)事業部紹介

iii) XC事業部の駐車機能群

駐車支援システムの機能、製品のロードマップなど

iv) 自動バレーパーキング(AVP: Automated valet parking)の紹介

3つのタイプの自動バレーパーキングなど

v) ボッシュの自動バレーパーキング

ボッシュの自動バレーシステム(タイプ2)の必要な装備、ユーザーベネフィットとユースケース、AVP技術の応用など

(5) 「街の中心となるモビリティハブの創造に向けて～空飛ぶクルマ離着陸場～」

①講師 IHI運搬機械株式会社 パーキングシステム事業部 開発部
部長 巽 慎太郎 様

②要旨

i)会社紹介 株式会社IHI及びIHI運搬機械株式会社

ii)空飛ぶクルマとは

空飛ぶクルマの利点、市場予測、国内動向に係る空の移動革命に向けた官民協議会に関する内容など

iii)当社の提案する空飛ぶクルマの離着陸場

パーティストップ、パーティハブ、パーティポートの内容とパーティポートの①エリア配置とオペレーションの検討、②離着陸エリア、強度検討など

iv)モビリティハブの創造、そして、自然と技術が調和する社会の実現に向けて

以上